



岐阜大学機関リポジトリ

Gifu University Institutional Repository

腫瘍血管の接着因子から検討した脳腫瘍の悪性化

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2008-03-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 坂井, 昇 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12099/592

はしがき

悪性脳腫瘍の発育に関わる重要な因子として血管の新生が挙げられる。血管新生の機序について、従来より VEGF(vascular endothelial growth factor)や bFGF (basic fibroblast growth factor)などをはじめとする血管増殖因子に関心が寄せられ、血管内皮や周皮細胞及び平滑筋細胞などで構成される血管細胞の相互間における細胞接着因子、細胞骨格に注目、言及した報告はない。神経膠芽腫に極めて特徴的な糸球体様に増生する血管は、その無造作な増生の故に、血管構成細胞間の接着や細胞骨格の状態は正常脳における血管細胞と比較して何らかの変化を呈していることが予想される。in vitro では正常血管内皮の管腔形成には VE (vascular endothelial) cadherin や PECAM (platelet endothelial cell adhesion molecule)が互いの血管内皮を結合させる接着因子として関与しているが、なかでも β -catenin はそれらを細胞内で支える共通の蛋白である。 β -catenin は、細胞骨格である F-actin に連結する中間的な役割を担っており、血管の管腔形成において重要な factor である。一方で癌抑制遺伝子である APC (adenomatous poliposis coli)とともにその変異が大腸癌などの tumorigenesis に重要な役割を果たすこと、またアフリカツメガエルの体軸に関する実験から細胞の極性にも関与するなど、その機能は多岐にわたる。本研究では β -catenin が tumorigenesis と細胞の極性との関連性に着目し脳腫瘍における血管増生への関与について免疫組織学的に解析した。

研究組織

研究代表者：坂井昇（岐阜大学医学部教授）

研究分担者：篠田淳（岐阜大学医学部助教授）

研究分担者：吉村紳一（岐阜大学医学部助手）

研究分担者：森秀樹（岐阜大学医学部教授）